

2013 年 NordicTour レポート

(2013.05.30 ~ 06.09 にツイッターに掲載した文章を加筆)

~ May 30 ~

セントレア着いたけど、フィンエアー欠航。どうなるんでしょ。とりあえずカウンターに並ぶ。午前便の振替には入れず午後便のどれかを待つことに。今日はオスロには着けないよな。宿をキャンセル。

今 PC メールみたら振替便の e チケットが来ていた。これ見ていたら午前中の振替に間に合ったのか。。 今後、欠航時はメールチェックしなくちゃ。

午後 3 時、まだ飛べず。カウンターから人いなくなって、電話しても出ないし、どうなってんだ。

やはり忘れられていたっぽい。いろいろ当たり、今晚のタイ航空バンコク経由で明朝オスロ入りできることになりました。なんとかなったー！初めてのバンコク transit、楽しみながら行きます。



(現地時間夜中)ととりあえずバンコクへ。トムヤンクン食べた。

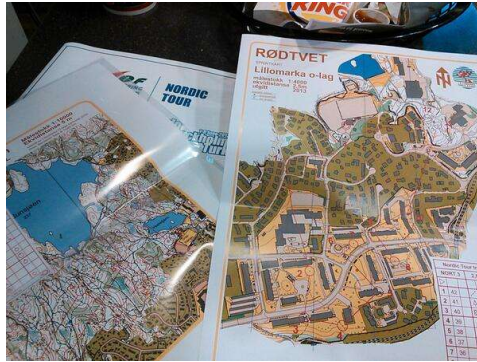


~ May 31 ~

なんとか、オスロまで。実は初ノルウェー。噂通りの物価高。スタバのラテ 1 杯 900 円くらいしませんか、こりゃ。ま、いいや。で、これからどうすんだっけか？、と空港にてスケジュール練り直し。



イベントセンターへ行って受付。トレマップもらったが、移動で疲れすぎたので駅に戻り、宿のチェックインまで市街地を散策。のつもりが本当に疲れたので駅でプリテンを読む。夕方のミーティング前に散歩して、少しだけ森の様子を見ておこな、という予定だったがそれも出来ず。



しかしオスロ、よい街だなあ。たいてい電車とかバス乗るのに苦労するのに、情報多くて分かりやすいので動きやすい。



~ June 1 ~

スプリント、メディアによる演出もあり、よい機会になりました。普通の住宅地でのレースでしたが、面白いコース組むなあ感嘆。男子の2-3はベストルートを見つけられませんでした。

ルートチョイスを除けば終盤で入り口を見逃して10秒くらいのミスをしたくらい。先週の合宿の感じからすると、日本のスプリンターならば僕より60-90秒は早いタイムで走るはずで、コンディション良ければ2分ちかくいくか。それで16分台、50位台。WOCなら予選通過も見えてくる位置です。



トップ選手のルートを見ていてすごいと思うのは微妙なルートチョイスで、かなりよく比較しないとこっちがベストと言えないところでもほとんどの選手がそのベストなほうを選んでくること。わずかな距離やアップを比較する思考、プロセスを徹底的に身につけているのでしょう。これは日本でもできることです。

明日はミドル。今回の遠征で数少ないフォレストオリエンテーリングレースの機会ですが、まずは日本でやるときのようなルート取りでどのくらいの結果になるか見てみます。

宿近くからの風景。8時すぎ。今は9時過ぎですが明るさは変わらず。もうすぐ寝るのでいつまで明るいかわかりませんが、これぞ北欧の夏。そういえば港近くでスバル車の撮影をやっていました。



~ June 2 ~

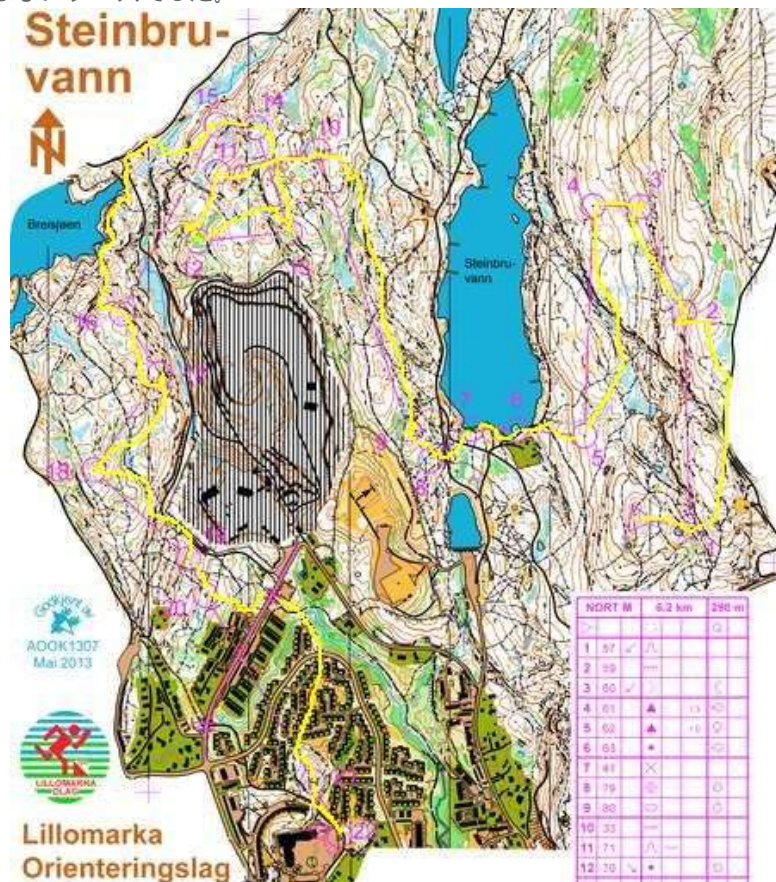
おはようございます。今日はどうやら雨模様。宿をチェックアウトし、レースが終わったらストックホルムへ移動です。

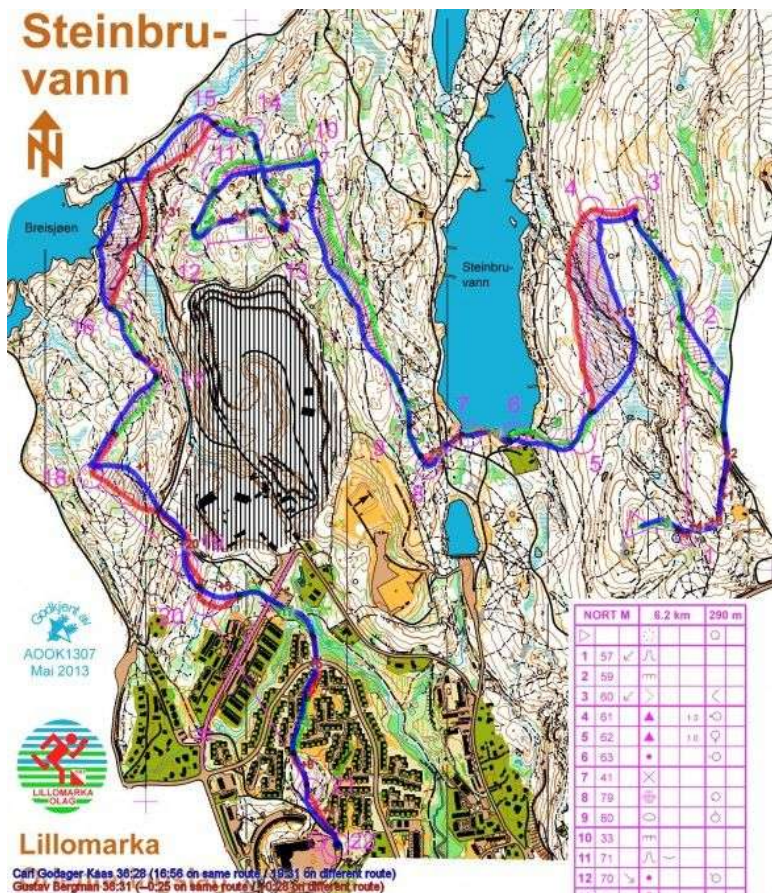
今回のツアーでは計測は emit を利用してますが、いわゆる E カードの他に emitag というタグも使います。ランナーはこのタグを時計のように手首に巻いておくだけ。中間計時やゴール計時のときにワイヤレス、パンチフリーで作動してるようです。



今日のレースは 90 秒間隔。女子は 15 秒、45 秒のところからスタートします。全体では 45 秒毎にどんどん選手が出て行くことに。こういうのもありなんだ。

ステージ 2 はミドル、6.2km、52 20 でキロ 8 分半を切るくらい。スカンジナビアでやりがちな完全なる現在地ロストはなく、コントロールまわりで少しうろつくくらい。明らかなミスは 2 箇所合計 90 秒くらいの体感。悪くはないレースでした。





トップ選手のルート

世界選手権だとどうしても無理をして走り、途中で破綻してしまう傾向にあったので、日本でやるレースのペースでしっかりやって、トップレベルの中でどれくらいになるのかを計る機会が欲しくて、それを今回やってみました。

スカンジナビアトレインであってもやることやってれば対応はできるということがわかり、大きな収穫だと考えています。事前にトレマップに入り、コンディション整えていればキロ8分は切れる印象。キロ7分半ちょいが日本選手の現状でしょう。

フィンランドのモルテン曰わく、ここはWOCのミドルタイプに似ているとのこと。キロ7分を切れば予選通過はかなり近いのではないかと。もちろん、昨日の予測も含め、コース次第ではあるんですが、そのくらいにつけられるのがチーム目標となるでしょう。

しかし、雨のスカンジナビアントレインは普段とは違った難しさがあります。晴れてればハイウェイのはずのトレイルや湿地が沼地となるので、天気によってルート取りを変えたほうがよいんじゃないでしょうか。こういうコツを得るには、ずっとこっちにいて感覚を掴まないと難しい。

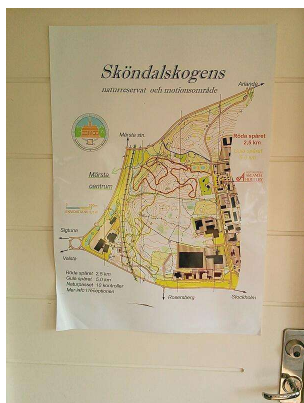
さて、オスロの旅、最後の最後でメトロの検札に遭遇。しかもそんなときに限って切符見つからず、逮捕されるのかと焦る焦る。パスポートに挟まった切符を見つけ事なきを得たからよかったけれど。無賃乗車なんていくらでもできそうだけど、みんなちゃんと払って乗っている。その社会システムがすごい。そうそう、ヌテラはliquidなの？空港で没収されてしまう。大切な昼飯のお供が。。

そんなこんなでストックホルムに到着。飛行機だいぶ遅れ、リクエストしていたホテルの送迎おらず。タクシーで宿まで。痛い出費。しかし体力回復を優先。おやすみなさい。

~ June 3 ~

時差ボケのダメージで体調的に一番きつくなるであろうスウェーデンステージの宿は、奮発してよいホテルを取りました。明朝にはチェックアウトしなくちゃいけないのが惜しいくらいよい宿。ツアー戦は初めてですが、体調を維持していくことは重要に感じます。

で、そのホテルの周辺図として利用されるオリエンテーリングマップ。もはや文化。



ちなみにスウェーデンステージはストックホルム開催ということになっていますが、正確には Sigtuna という首都より少し北にある小さな街が舞台です。ここはスウェーデン最古の街と言われていて、レースのある中心部は中世の雰囲気らしい。レースが楽しみです。



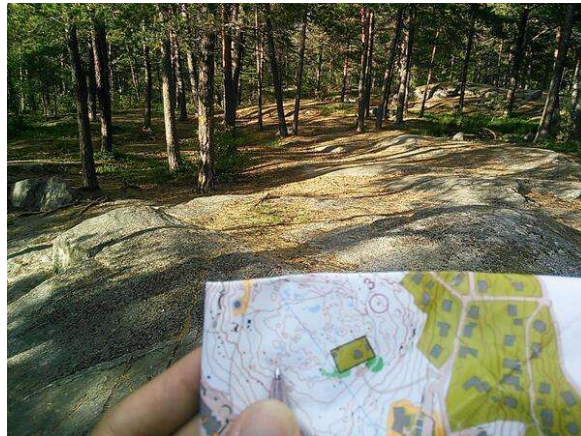
明日はノックアウトと呼ばれるスプリントレースですが、ノックアウトの醍醐味を味わうには午前中の予選で 24 位以内に入らないといけません。予選は普通のオリエンテーリング。コースは 5km ちかくあり、ミドルと言ってもよい長さ。

で、晴れて準決勝に進むと 8 人、3 組に分けられ、組ごとにマススタート。上位 2 人とラッキールーサー 2 人の 8 人が決勝へ進みます。コースはフォーキングされていて回る順番は人により少し違います。フィニッシュ前は白熱の展開が予想され、emitag ではなくフォトセルによる計時が行われます。

ラッキールーサーは日本で言えば敗者復活なわけですが、今晚のミーティングでこのルールについて議論となり、当初のルールが少し変わりました。まだ試行錯誤中な種目。結局各組 3 位のうち午前中の予選最高位者とツアー 2 戦目までの総合成績最高位者が決勝へ行くことになりました。

決勝まで進むとフィンランドへの船に間に合わないのですが、その場合は切符を破り、ホテルと飛行機を手配する予定。もちろんそれだけの価値はある。結果や予算を考慮して移動プランを複数考えておくのもツアー戦の楽しみなのかもしれません。

しかし等高線間隔 2m の地図の中で等高線 1 本だけで描かれる地形把握は難しいです。そういうところは現地を読むのではなく、分かることからズバッとアタックするしかない。行けばフラッグが見える、という感覚でしょうか。



~ June 4 ~

ノックアウトスプリントは予選敗退。4.6kmを21 30。朝は疲れを感じましたが、レース中はコンディション上がり、ペースを上げつつうまくコントロールできたよいレースでした。20分台は出したかったですがその辺が今の僕の実力か。ヨーロッパ勢に土をつけるチャンスだったので悔しいです。

市街地レースでは立入禁止区域を恐れ、特に出だしですごく慎重なルートをとってしまい、結果的にタイムをロスしたことになりました。1秒使ってルートを見極め、1.5秒縮められるならそうするべきです。2秒、3秒得られるなら尚更。だけどその1秒が徒労に終わる可能性もあるわけで、ここは1秒使うべきポイントだ、という嗅覚は養っておきたいところです。

かつ北欧の市街地トレイルは花壇や超えられそうな壁(だけど通行禁止表示)など微妙な所にはきちんと青黄テープを巻いてくれているので現地読みで神経質になる必要はありません。

午後のノックアウトスプリントは準決勝だけ観戦。なかなか熱いレース。先頭の選手がミスして後続がつられる。逆に出し抜こうとして我が道を行き、成功する選手もいれば失敗する選手もいる。ウイニング8分程度のレース。新しい戦略が生まれそう。

スタートコールの選手紹介は陸上競技のそれ。コントロールでのポジション争いも8人なのでカオスにならない程度に熱い。追跡カメラでマラソンのような中継もあり、演出は派手。

解説していたスウェーデン代表ヘリアナ・ヤンソンが、友人としての情報を含めつつ、日本で言えば増田明美さん風な解説してた気がします。スウェーデン語だったからそんな気がするだけですが。そんな解説含めてメディア受けする雰囲気を狙ってるのは感じます。

だけど陸上の5000mみたいに最後のダッシュ力で決まってしまう感もあり(ま、そこまでついていけないだけですが)、オリエンテーリングというよりはクロカンの要素もだいぶ強い。コーナーでブロックしたり、パンチングでタックルしたり、袖を引っ張っているのもいたし、格闘要素もあり？



スタートの様子(左) 中盤の争いを映すスクリーン(右)

~ June 5 ~

ストックホルムからフィンランド・トゥルクへバイキングラインの船旅で移動し無事到着。5年ぶりの同航路、相変わらず船底キャビンの貧乏旅行だが、船底キャビンもシャワートイレ付の個室になっていてまったく快適。日本のビジネスホテルより広い。前はB寝台みたいなのがあったのに。



トゥルクの宿は、気になっていた船上のコースホステル Borea。接岸されているだけなので揺れている。パソコンとかずっと凝視していると酔う。イベントセンターからはちと遠く、他のチームがいないようなのが残念。

部屋は狭いが収納性は高く、シャワートイレ付き、キッチン、洗濯機やサウナも利用でき快適。朝食込み。コスパも高し。wifi が部屋でも使えれば言うことないんだが。



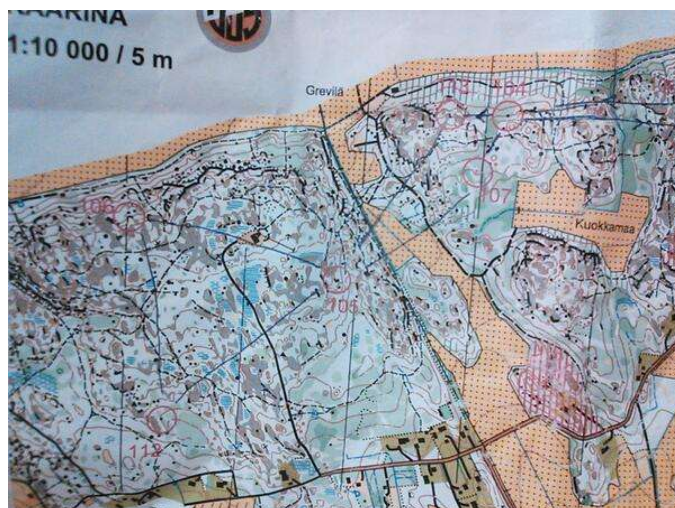
とりあえず定番で好物のカリヤラン・ピーラッカを食す。



午後にはフォレストトレインでのトレーニング。ノルウェーのときはうまくいったのに急にミスするようになった。お腹すいているからかな？と試してみたが、よく考えたらフラットだからだと気づく。丘の上はなんだか地形がたくさん描いてあるが、のっぺりしているので、傾斜のあるところほど地形に連続

性がなく、現地読みだけで辿るのが難しい。正しい方向へ進むにはコンパスをチェックしながらじゃないといけない。またそんな中でも連続性ある地形はあり、それを見極めると楽になる。

いわゆるBヤブ以下の林は、日本のヤブのように草がボーボーな訳ではない。木が密集しているヤブ。言い方を変えると、木が生えられる場所、つまり土の地面。Aの林がAなのは、岩がちで木が生えないから。岩の地面。これは現地読みにも有効。木がまったく生えないくらい岩ならば灰色表記。



残り2戦、なんとかヨーロッパ勢数人には勝ちたい。最終戦のチェイシングは12km強のコース。ウイニングも70分前半の予想。ここは頑張りどころ。

~ June 6 ~

さて、今日はスプリント対策での市街地トレーニングへ。夕方にはトゥルク市主催の歓迎会がある。明日はスプリント予選決勝、その後運営者主催のディナー。明後日は早いもので最終戦チェイシング。そんな予定。フィンランドステージは全選手がGPS背負うらしいが果たして？



非常に狭い建物の切れ目

夕方のトゥルク市主催の歓迎会はあんまり参加者集まらずちょっと寂しい会だった。が、おかげでこのツアーのライバルがいるベラルーシチームとゆっくり話す機会を得られた。単独でのツアー参加は周りも顔を覚えてくれるのでコミュニケーションしやすい。



~ June 7 ~

今日は朝の9時から予選だったので、準備が大変であったが、レースはまずまずで、これまで勝てそうで勝てなかった選手らをわずかに上回ったので嬉しい。周りの選手はレースを重ね疲労も貯まってきたようだが、トレーニングをたくさん積んできたおかげか、僕自身は走るごとに調子が上向いている。

前夜のミーティングで、予選のコース上に急遽工事が入り地図に印刷された終盤のコントロールを飛ばしてくれ、という話になった。地図の該当箇所はパープルで塗りたくられ、位置説明は手書きで消している。北欧と言えども、市街地レースでは色々な苦労があるようだ。

今回は中盤で1分後のデンマークの選手に追いつかれたが、その後は自分でナビゲーションしながらも彼と同じペースで走れた。つまり実はもっとスピードが出せるが一人ではがんばれてないようだ。もう少しノビシロがありそう。

しかしやはり序盤のいくつかで、最初に見えたルートに向かって数歩動き出した後でベストルートが見える、「あっても今から方向転換したら遅いかも」と考えているうちにさらに数歩が過ぎ、もう修正効かない、という場面を拭えない。

今日の予選はTOP30が予選通過で3.5km、13分台前半が必要。日本のトップスプリンターがうまくコントロールできれば13分台後半は行けるだろう。TOP45が予選通過のWOCでは微妙な、しかしともすれば狙える位置。希望を持って準備しよう。

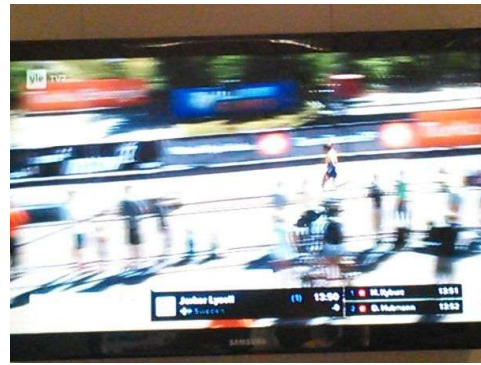
こんなに楽しいスプリントばっかだとまたスプリント狙いたくなってきてしまう。

いずれにしても失格なしで最終レースを迎えられた！明日はツアー王者を決めるチェイシングスタートのレース。一つでも上の順位を狙ってがんばろう。ちなみにチェイシングスタートとは、ツアー各戦の合計タイムの少ない順(つまり早い順)にスタートし、最初にゴールした人がツアー総合優勝、というシステム。

トゥルクステージには日本の元コーチで現フィンランドチームのスプリント特任コーチであるイーキスも来ている。相変わらず陽気だった。彼に会うと元気になる。

さて、今晚は決勝の後、バンケット。スパにも入れるというのだが、よく考えたら水着だよな。

そんな日の午後、疲れて宿で寝ていたら寝過ごした。とりあえず男子はTV観戦。水泳の世界記録ラインみたいにトップタイムとの差が可視化されている。よく考えるなぁ



会場ではルール不明のオリエンテーリングスゴロクを販売していた。ミンナ・カウupp推薦、と書いてある。



夕方はスパとサウナを堪能し、バンケットへ。といっても明日もまだレースがあるのでパーティーというより普通のディナーだった。しかも小さなチームは来ておらず、ひとりぼっち。イーキスもお仕事で、はてどこ座ろう？と想着いたら、スウェーデンの女子からお誘いいただく。

しかも日本からきたオジさん相手にいろんな話題を振ってくれるホスピタリティ。これからはスウェーデン推していこうかしら。Toveちゃん、ツンデレなところがかわいい。

フィンランドステージの競技責任者は元世界チャンピオンのヤンネ・サルミ。存在感が圧倒的で、スピーチでは「文句あるか？」と言わんばかりのドヤ顔。しかし、誰も聞いてもないのにトイレの場所までいちいち教えてくれる細かさに愛嬌を感じる。そんな彼曰く、明日はタフなレース。おやすみなさい！

~ June 8 ~

最終レースはヤンネの言葉通りとてもタフで、なんとか完走、という状態だった。1周目途中までは大変調子よく、3分前の選手まで拾い、パツクリーダーになったけど、そこで調子に乗りすぎたか、ちょっとした勘違いで大きくミス。2ループ目は集中に欠き、暑さもあってフラフラ。実力不足を感じる。

このくらいのコースでまずは100分台を安定して出せるようにならないとなぁ。世界選手権はタイプの違うトレインなので、気を取り直して今回のツアーを分析し、仕上げている。

そんなこんなでツアーもあつという間におしまい。ツアー優勝者には賞金がある。各レースの上位者にも賞金が出るので、このツアーで例えばシモーネは6500ユーロ獲得したことに。メジャープロスポーツに比べたら安いものだが、年間の活動費用くらいは捻出できるんじゃないだろうか。個人にいくら入るのかわからないが。



~ June 9 ~

1週間、応援ありがとうございました。今から帰国の途につきます。3週間後にはまた来るので名残惜しさはないですが。



~まとめ~

このツアーはもちろん選手として強くなるチャンス。他国の選手と触れ合う機会が多いし、移動や宿泊、食事の手配など海外の生活をなんとかする経験も得られる。彼らの真似をして強くなる訳ではないが、当分は日本開催のピックレースのチャンスがない以上、海外慣れしておくにこしたことはない。

またコーチとしての経験も得られる。Team Official's Meeting が何度もあり、小さなチームは事前に色々を確認しておかないと後で困ることになる。毎年スモールチームで参加している李には経験値の高さを感じた。カナダは女子2人で参加していた。何事も経験。



希望的観測も入つつレポートをしてきた。世界選手権に向けて決して楽観はできないが、男子チームは何か新しい刺激を得られる予感がしている。女子チームは JWOC からの連戦だが、多くのチ

ームにそれを話すと素晴らしい経験をしていると賞賛していた。新しい船出に相応しいWOCにした
い。

～おまけ～

そういえば今回のノルディックツアーはNORTと略す。NordicOrienteeringTourの略だろうが、オリ
エンテーリングをORと表すのはあるようでなかった気がする。